

言葉かけ（基礎編）

お子さんの心の発達、言葉の発達にはご家庭で関わりがとても大切です。これは難聴児であっても健聴児であっても同じです。

忙しい毎日だとは思いますが、お子さんと一対一で関わる時間を持つようにしましょう。そして、この時間はしっかりお子さんと向き合い、お互い集中できる環境を作るよう心がけましょう。

1. 環境調整と機器管理

- 補聴器や人工内耳は終日装用しましょう。
 - ✧ 毎朝装用前にきちんと作動しているか大人が確認をしましょう
- （マイクの）近くで話しかけるようにしましょう。
 - ✧ 衣服や髪などでマイクの部分を覆わないようにしましょう。
 - ✧ 初期は話し声が入りやすい工夫が必要です。
- 静かな環境を整えましょう。
 - ✧ テレビやCDは消しましょう。
 - ✧ 初期は話し声がしっかり入るように周囲の雑音を減らしましょう。
- 一対一で関わる時間を作りましょう。
 - ✧ ご兄弟がいる場合には、ご兄弟がでかけている時間帯が良いでしょう。

2. 発声の仕方

- 適度な速度で話しましょう。
 - ✧ 早口では言葉が聞きづらくなります。
 - ✧ 極端にゆっくり話しても言葉が聞きづらくなります。
- 適度な音量で話しましょう。
 - ✧ 大声をはりあげたり、小声で話すと言葉が聞きづらくなります。
 - ✧ 聴こえが育ってくると小声での内緒話も楽しめるようになりますが、初期は適度な音量でお話しましょう。
- はっきりと抑揚豊かに話しましょう。
 - ✧ 単調に話したり、言葉を区切って話すと聞きづらくなります。

3. タイミング

- 身振りの前に言葉かけをしましょう。
 - ✧ お子さんが幼い時期には簡単なジェスチャーや身振りをまじえることも多いと思いますが、お子さんが身振りの意味を理解してきたら、身振りをつける前に言葉だけを話すよう心がけてみましょう。
- お子さんの反応を待ってあげましょう。
 - ✧ やみくもに話しかけずお子さんの様子や反応を見ることも大切です。

4. 活動例

- 一緒に遊びましょう。
 - ✧ とにかく一緒に遊びましょう。おままごと、乗り物遊び、積み木、ボール遊び、お絵かき、なんでもかまいません。
 - ✧ 一人で遊ばせるのではなく、やり取りを誘いましょう。
- 【例】おままごとの場面
 - ・ 「ママお腹すいちゃった」「バナナ食べたいな」「ありがとう」（お子さんとママの一对一のやりとりの場合）
 - ・ 「うさぎさんに人参あげようか」「うさぎさん、どうぞ」（お子さんとママの一对一の関係からもう一つの対象物がある場合）
 - ・ 「〇ちゃん何食べる？」「りんごとバナナどっちがいい？」（お子さんに選択させ、意思を表出させる場合） など
- お手伝いをさせましょう。
 - ✧ ご飯のお支度やお洗濯などのお手伝いの中でもやり取りを誘いましょう。
- 【例】お洗濯をたたむ場面
 - ・ 「シャツをたたんでね」「半分、半分」「パパのシャツ大きいね」「〇のパンツはどこかな？」
- 手遊びや歌もたくさん歌いましょう。
 - ✧ 子どもは歌が大好きです。それは、難聴児も同じです。いろいろな手遊びや歌を楽しみましょう。
 - ✧ 手遊び歌はお母さんも一緒に振りをつけて歌いましょう。振りがない歌は一緒に作っても楽しいですね。
 - ✧ CDなども活用しましょう。（かけっぱなしではなく一緒に歌いましょう）
 - ✧ CDの音の聞こえ始め、聞こえなくなった時には「あっ、きこえた」「あれー、きこえないね」と音のON/OFFも楽しみましょう。
- 体を使ったふれあい遊びもたくさんしましょう。
 - ✧ 抱っこして体をゆらしたり、飛行機遊びをしたり、布団でゴロゴロ転がったり、ハイハイごっこをしたり、体を動かしながら言葉かけをしましょう。
 - ✧ 小さい時期だからこそできるふれあい遊びがたくさんあります。
- お散歩や公園などの外遊びも楽しみましょう。
 - ✧ 勝手に遊ばせるのではなく、一緒に遊びましょう。
 - ✧ 実際に見たり、触れたりして興味を広げていきましょう。
 - ✧ 何か音が聞こえたら一緒に探しましょう。そしてどこから聞こえたのか、何の音かお話ししてあげましょう。
- 【例】お花を見つけた場面
 - ・ 「パッとお花が咲いてるね」「お花きれいね」「お花いいにおいだね」「ピンクのお花だね。」お子さんが興味を持ったものについて色々お話ししてあげます。同じ「お花」という言葉を使って何度も色々な角度からお話ししてあげましょう。そして、お子さんからの反応も待ってあげましょう。